

～ 夏休みだからって、全部自分の時間だと思うなよ ～

校長 城田 善夫

連日、サッカーワールドカップの熱戦が報じられています。日本チームの戦いは残念ながら終わってしまいましたが、私のような素人が見ても、歴代の代表チームと比較して選手個人の力やチーム力が格段に強くなったと感じさせられる試合ばかりでした。そして実況放送では、本田圭佑さんの解説が、的確な状況分析と独特な言い回しで人気となりましたね。本田さんは「今のトップチームは以前のチームより確実に強い。なぜなら、今の時代はインターネットの普及によって、映像で世界中のトッププレーを学ぶことができるようになったのだから」という趣旨のことを話していました。なるほど、「なぜその局面でそのプレーを選んだのか？」と考えることは、サッカーが上手になるための大きな武器になるということなのでしょう。

さて、7月になりました。梅雨の曇り空ですが、毎年この時期になると夏休みが近づいたことを意識します。私は毎年、夏休みには子どもたちにたくさんの体験を通して成長してほしいと願っています。夏休みの体験には、家族と過ごす日常生活習慣の中にあるものに加え、夏休みならではの非日常的で特別な活動もあり、そのどちらもが子どもにとって大きな意味を持ちます。

夏休みは、家庭生活に使える時間がたっぷり確保できます。毎日の家事を積み重ねることで、生活者としての意識とスキルが育ちます。また、時間割のない夏休みは、自ら時間を管理する絶好の機会です。毎日の掃除、洗濯、料理などの役割を担い、自身の時間管理の中でやりくりすることは、子どもに「自分は家族の役に立っている」という役割意識を持たせます。「自分でご飯を炊けた」「部屋をきれいにできた」という即時的な成果と、家族からの「ありがとう」という報酬（社会的評価）が、児童期の自己概念を「有能な生活者」へと成長させるのです。夏休みだからといって、すべてが自分の時間だと思わせないことも、子どもの成長には大切な視点です。

そして、夏休みならではの非日常的な自然体験や家族イベントは、子どもの「自己拡張」と「情緒的自己（アイデンティティの土台となる感情）」に深い影響を与えます。夏の体験は、予測不能なハプニング（天候の急変、虫への恐怖、言葉の通じない異学年との交流など）に満ちています。こうした心地よいストレスに直面し、それを乗り越える経験、そして「知らない環境でも自分は適応できた」という記憶は、自己意識に深い自信を植え付けます。また、「満天の星空を見た」「家族と砂浜で遊んだ」といった強烈な感情を伴う体験は、脳にエピソード記憶（物語としての記憶）として深く刻まれます。自己意識の確立には「過去・現在・未来の自分はつながっている」という「自己の連続性」の感覚が必要です。「あの夏、楽しかった」というポジティブな自伝的記憶は、将来、困難に直面したときに自分を支える「情緒的安定性の基盤」となることでしょう。

しかし、注意したいことも多くあります。インターネットの普及によって、子どもが属する「家庭」「学校」「習い事やスポーツの集団」など現実のコミュニティに加え、SNS に代表される「ネット空間」も、今はすぐ身近にあります。現実世界のコミュニティからは帰宅すれば解放されますが、インターネットの登場はその境界線をあいまいにさせました。

私たちが意識する「自己意識」には2つあり、一つは「私的自己意識」（誰にもものごとのできない自分）、もう一つは「社会的自己」、言い換えれば「公的自己」です。現実空間で相対する人と人とのコミュニケーションについて、経験を通して学び始めたばかりの子どもにとって、SNS 上では（適切なスマートフォンの使い方の約束がなければ）24時間いつでも続く公的自己の拡大が起こります。こうした状況では精神的な休息が難しくなります。また、大人の目の届きにくさと、長期休業による現実世界での他者との接点の少なさから、いったんトラブルが起きると当事者だけで解決できず、事態が深刻化することも少なくありません。

ネット空間は、人の多様性を受容することや、様々な可能性を広げることができるツールであることは確かです。前出のサッカーにしても、世界一流のプレーを参考にできることで、世界に羽ばたく選手が育ってきた事実があります。インターネットが子どもの可能性を広げる一方、その入り口である携帯電話の正しい使い方を家族間でしっかり確立すること、そして定期的な見守りを行うことが、子どもの成長を守ることに繋がります。ぜひ夏休み前に再度、ご家族で確認していただければと思います。

強烈な夏の太陽と入道雲の景色が、もう目の前です。この目の前の景色に飛び込まない手はありません。予想できない冒険の旅、リアルな家事をこなす自分。それらの経験が、ひとつながりの自分を形づくります。

相変わらず、大人になった私たちも、夏にはワクワクしています。

今年もまた、小学校の時から続く「あの夏は楽しかった」という自分の物語に、新たな物語が書き加えられます。

7月行事予定

生活目標

元気にあいさつしよう



1	水	ブックエンド読み聞かせ：朝（4/5/6年）
2	木	
3	金	スクールカウンセラー来校日 ブックエンド読み聞かせ：朝（1/2/3年）
4	土	旭・大沢ブロック×清新 PTA 家庭教育事業 1400ソレイユさがみ（事前申し込み必要）
5	日	
6	月	個人面談① A4日課 性に関する指導週間（10日まで）
7	火	児童朝会 個人面談② A4日課
8	水	個人面談③ A4日課 5年おはなし会（でいらぼっちの会）
9	木	個人面談④ A4日課
10	金	個人面談⑤ A4日課 ICT支援員来校日
11	土	
12	日	
13	月	個人面談予備 1年生ありがとう集会 九沢タイム（なかよしクラス）
14	火	安全安心パトロール 個人面談予備 5校時日課
15	水	1学期給食最終日 ICT支援員来校日 大掃除（A5日課）
16	木	B4日課 3年おはなし会（でいらぼっちの会）
17	金	B4日課 1学期終業式

★夏季休業

7月21日（火）～8月24日（月）

★学校閉庁日

8月10日（月）～8月16日（日）

★8月・9月1日の予定★

25	火	2学期始業式 B3日課（11:25下校） 生活リズムカード配付
26	水	B3日課（11:25下校）
27	木	B3日課（11:25下校）
28	金	B3日課（11:25下校） 集団登下校指導
31	月	B3日課（11:25下校） 情報モラル週間
9/1	火	給食開始 歯科巡回指導（2・5年）

放課後の時間の過ごし方

7月は、通常より早く下校する日が多くなります。遊びに出かける際は、行き先や一緒に遊ぶ友だちなどを家族に伝えるなど、安全に気を付けて、有効に時間を使えるようご家庭でも言葉かけをお願いします。



せんにな（専任）Eyes

2026



夏至が過ぎ、いよいよ本格的な夏がやってきます。年々暑さがきびしくなり、台風や線状降水帯の発生による被害の拡大など、天災が身近に迫っていると感じます。その上、先日は震度5弱の地震が発生し、子どもたちの命と安全を守る重責を痛感したところです。

地震があった26日の昼にも小さな地震がありました。ちょうど給食の真っ最中、折しもサッカーワールドカップ日本代表の試合に合わせた「ワールドカップ応援給食」をおいしくいただいていた時間でした。「あ、地震だ」と気がついた子どもたち。私の指示を待つことなく、全員さっと机の下にもぐっていました。その上誰一人騒がず、静かに放送を待っていました。隣のクラスもその隣のクラスも…。もちろん震度2というわずかな揺れだったので、気がつかなかった学年もありましたが、子どもたちの落ち着いた行動から、普段の避難訓練が身につけていることを知ることができました。子どもたち全員の命と安全は、教職員の力だけで守れるものではなく、子どもたちの協力が不可欠です。常々「緊急時は先生の指示に従って行動する」という話の通り、その準備は確かに整っていると感じました。

他の自治体で起こった小学校の火災のニュースを、背筋が凍る思いで見ました。的確な指示を出すために、どのようにして状況を把握するのか、子どもたちの不安を和らげながら避難に導くために、自分ならどうするだろうかと考える日々が続いています。避難訓練やシミュレーションを重ね、最善策の想定を広げておくこと、そして、自分の命も他者の命も大切に思い、いざという時には互いに助け合える仲間づくりに努めようと、決意を新たにしました。児童支援専任 菊地原